

宮中取水ダム試験放流に伴う検証の内容 平成25年度(4年目)調査等計画(案)

※現地調査は東日本旅客鉄道(株)、解析・評価は北陸地方整備局信濃川河川事務所を基本

項目	調査内容	調査の目的等	平成22年度 (1年目)	平成23年度 (2年目)	平成24年度 (3年目)	平成25年度(4年目)	
							備考
河川形態	航空写真判読	各流量の瀬、淵等河川形態の状況を確認する。	○	○*	○**	△	宮中取水ダム流入量が3,000m ³ /sを超え変化が著しい場合に実施。
河川水温	水温実測	夏季の流量における水温を確認する。	○	○	○	○	夏季40m ³ /s試験放流時の調査を含む。
付着藻類	現地調査	夏季の流量における付着藻類の異常繁茂の状況を把握する。	○	○	○	○	
底生動物	現地調査	底生動物の生息状況を把握する。	○	○	○***	○***	
魚類の生息 及び遡上・ 降下	生息・生育状況調査	魚類の生息・生育状況を把握する。	○	○	○	○	
	生息場の状況調査 (溝筋)	魚類の移動のために必要な水理条件(水深)が確保されているかどうかを確認する。	○	○*	○**	△	宮中取水ダム流入量が3,000m ³ /sを超え変化が著しい場合に実施。
	アユ生息・生育状況調査	アユの生息・生育状況を把握する。	○	○	○	○	
	サケ遡上調査	サケの遡上数を把握する。	○	○	○	○	秋季40m ³ /s試験放流時の調査を含む。
	サケテレメトリー調査	流量変動時のサケの遡上速度・経路等を把握する。	—	—	—	○	新規調査
河川景観	写真撮影	各流量の河川景観を把握する。	○	○*	○**	△	宮中取水ダム流入量が3,000m ³ /sを超え変化が著しい場合に実施。
河川水質	水質調査	各流量の河川水質を把握する。	○	○	○	○	
河川利用	河川利用状況	釣りやその他の河川の利用実態を把握する。	○	○	○	○	
	釣場適性把握	釣り場として利用可能な範囲を把握する。	○	○	○	—	
	舟下り適性把握	河川利用の一形態として舟下り(ラフティング等)の適性を把握する。	○	○	○	○	120m ³ /s試験放流量時に1回実施。
水際環境	エコトーン調査	水位変動時の、水域と陸域の移行帯(エコトーン)の状況を把握する。	—	—	—	○	新規調査

○：実施 —：実施しない
△：場合によっては実施

*：平成23年度に宮中取水ダム流入量が約3,000m³/sを超えたため実施した。

**：平成24年度は宮中取水ダム流入量が約3,000m³/sを超えなかったが、補足調査として実施した。

***：平成23年度の調査結果により、平成24年度以降の初春季調査は実施しない。

新規調査の内容

①サケテレメリー調査

○調査目的

流量変動がサケの遡上に及ぼす影響を把握するため、サケの遡上速度や経路、遡上に要した時間等を把握する。

○調査概要

遡上期（10月頃）に宮中取水ダム魚道で捕獲されたサケに発信機及びデータロガー（加速度、照度等）を装着し、追跡調査を実施する。

○調査箇所

十日町橋上流地点で放流し、十日町橋上流地点～宮中取水ダム魚道までの区間（右図）で追跡を行う。

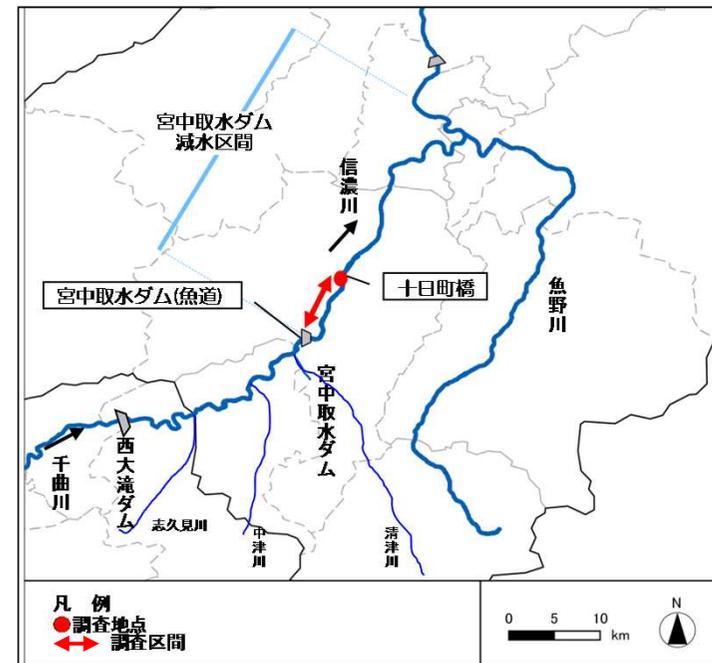
○調査の評価

流量の変動とサケの遡上行動との関連性を検証する。

追跡調査



機器装着イメージ



テレメリー調査区間

新規調査の内容

②エコトーン調査

○調査目的

陸域と水域の移行帯（エコトーン）における流量変動の影響を把握する。

○調査概要

①エコトーン観察

流量変動による魚類、底生動物の移動等を目視やカメラ撮影により観察する。

②ベルトトランセクト調査

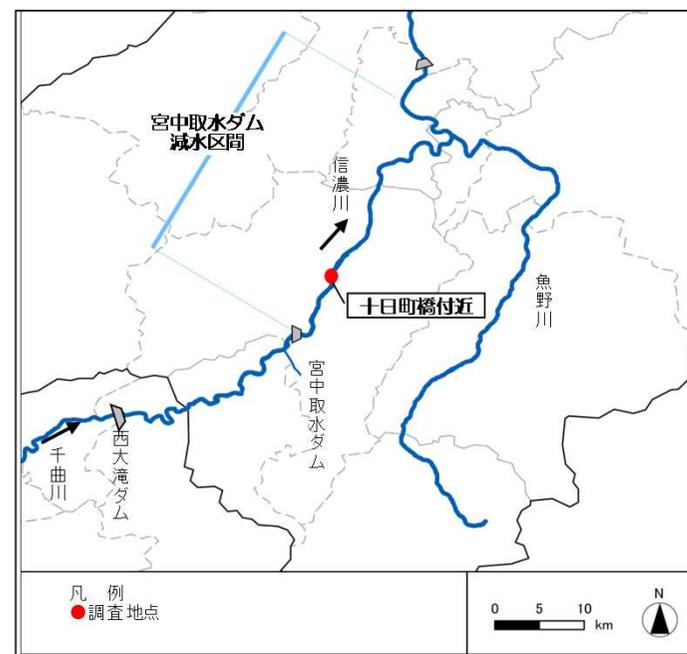
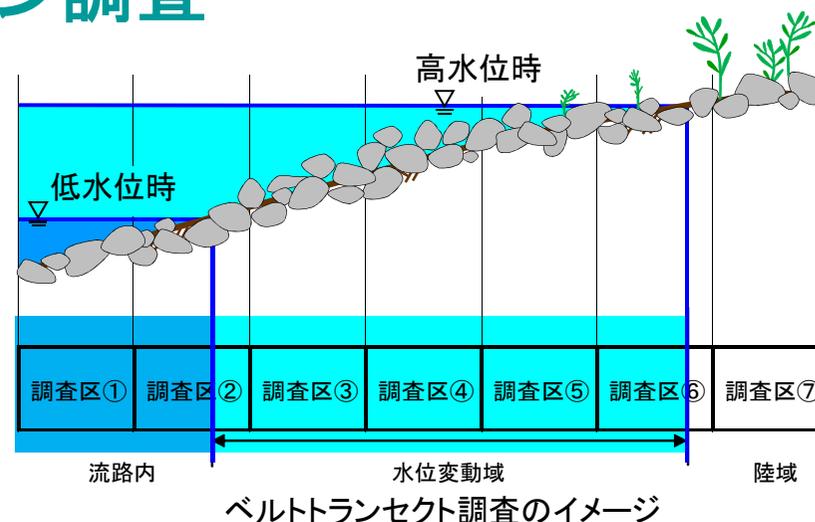
流路内～陸域にまたがる帯状の調査区を設定し(右図)、河床材料、底生動物、付着藻類、植生等の定量的な調査を行う。

○調査箇所

十日町橋付近に調査地点を設定する。

○調査の評価

流量変動によるエコトーンの変化を検証する。



調査地点